

広げよう！優良実践の輪！

～ 令和元年度 優良実践校の取組 ～

取組 7

活用力の育成を目指した宿題や 学期末テストの工夫

吉備中央町立吉川小学校

1 はじめに

本校は児童数減少により、平成30年度から完全複式となり、人間関係が固定化し、切磋琢磨し合うような刺激が少なくなりました。学力については、活用型の問題を苦手とする児童が多いという課題がありました。

2 具体的な取組

課題を解決するために次の五つのことに取り組みました。

(1) 学校独自のテストの作成

学力テストの結果から、できることからやろうと始めたのが独自のテストの作成です。作成に当たっては、正答率の低い問題を中心に過去問題を混ぜる、自分の言葉で書く問題を入れる、漢字や計算問題だけにしない、問題用紙と解答用紙を分けるという約束を作りました。

現在では、1年生から6年生までの1・2・3学期用の問題(国語・算数)を作成しています。

テスト類は、データ保存ではなく、教職員の目につき、いつでも取り出して使用できるように紙媒体で保管しています。



紙媒体で整理

(2) 各種プリントの工夫

授業に沿った宿題を出す、出さなければいけない、ただ丸を付けるだけではないということを通理解しました。活用問題を出したときは、必ず解説をして返却しました。そして、子ども

たちにただやらせるのではなく、何のためにするのか考えさせるようにしました。

結果として、家庭学習習慣の確立にも役立ちました。また、学期ごとに復習プリントを作成し、学習したことを忘れさせない工夫もしました。語彙を増やすために、「言葉の宝物」、ことわざ等、言語に関するプリントも作成しました。

(3) 振り返りに自分の考えを書く

授業ごとに「わがとも」(わかったこと・がんばったこと・ともだちのこと・もつとやってみたいこと)の観点から自分の考えを書かせる指導を行いました。

(4) 補充学習の取組

公民館と連携し補充学習を実施しています。ボランティア、担任、担任外の教員で指導に当たります。学習時間を地域の方との交流の場としても利用しています。複式学級のため、上の学年の児童が下の学年の児童に教えるという姿も見られます。

(5) 時程の工夫

帰りの会終了後から一斉下校まで30分のゆとりをもたせました。この30分間を利用して、学習が遅れている児童、宿題で間違っていた児童の指導に当たっています。

3 おわりに

全ての教職員が、児童のことを共通理解しているので、同じ指導をすることができ、児童にとつて課題となっていないことだけでなく、伸びているところも報告しあえるのも本校の強みです。

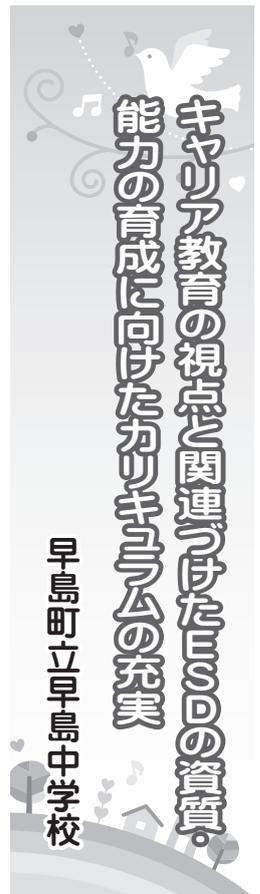
こうした取組の結果、学力向上が見られ、令和元年度は「全国学力・学習状況調査」で平均正答率が全国平均を上回りました。

現在の取組を継続することはとても大切なことだと考えていますが、同時に、日々の授業改善にも取り組んでいかなければならないと感じています。

(校長 渡邊 教行)



下の学年の児童に教える姿



1 はじめに

「教育のまち・早島」では、子ども一人一人が輝く学校の実現に向け、「保幼小中一貫教育の推進」「SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえたはやしま学の充実」「早島つ子を育てるシステムの拡充」を重点として、「自立・共生・郷土早島を愛する心」の育つ学校園を目指し、社会に開かれた教育課程の充実を図っています。

2 取組の内容

(1) 単元学習プログラムの構築

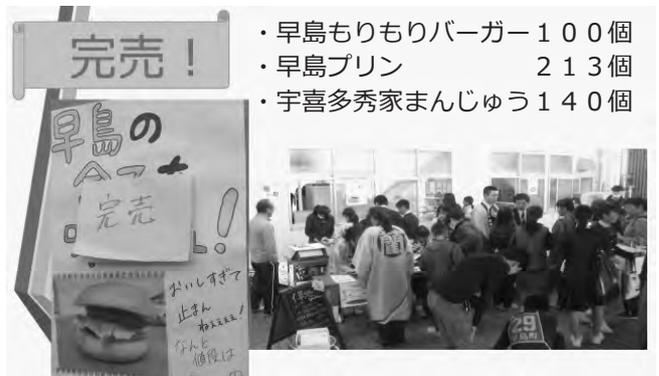
総合的な学習の時間を柱としたカリキュラム・マネジメントのもと、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点で重視する六つの構成概念・七つの能力・態度に、非認知能力の「や



企画書の再検討

り抜く力」を含めて、各学年で「付きたい力」を明確にした単元学習プログラムを作成しています。ESDで育成すべき能力・態度とキャリア教育で育む基礎的・汎用的能力とを関連付け、それが自分の内面に向かえばキャリア教育であり、地域社会への貢献に向かえばESDにつながると思っています。そし

- ・早島もりもりバーガー 100個
- ・早島プリン 213個
- ・宇喜多秀家まんじゅう 140個



開発商品の販売（花ごぞピンポン世界大会）

て、SDGsを踏まえた地域課題解決学習に取り組むとともに、発達段階を踏まえた小中統一のグレード表を作成し、児童生徒の自己評価能力を育てることを大切にしています。

(2) 主体的・対話的で深い学び

2年生の「世界へ発信！商品開発プロジェクト」では、早島の現状や課題を明らかにして、ターゲットやコンセプトを明確にした企画書の作成から、地元企業を中心に情報収集を行った上で企業の意見も参考にしながら

ら自らアイデアを創り出し、地域への広報や発信方法について探究活動を行い、自らの考えにさらに磨きをかけます。こうして開発した商品についてプレゼンテーションや評価を積み重ね、商品化までの試行錯誤を体感することで、「やり抜く力」を育てます。

3 おわりに

こうした探究的な学習活動の充実は、各教科の授業改善や学力向上にもつながっており、さらに地域社会と連携・協働する授業が増えることで、地域に学校応援団や理解者が増え、教員や生徒に早島への誇りや愛着が生まれています。

本年度も、学習したことを自己の生き方に活かし、持続可能な未来を拓く担い手となる社会人を育てるために、中学校区的全教職員が「チーム早島」として、校種を超えた連携プログラムや教科横断的な学習プログラムに取り組んでいます。

（校長 小野 秀明）